

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
神戸電子専門学校		昭和51年4月1日		福岡 壯治		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 コンピュータ総合学園		昭和52年2月28日		福岡 富雄		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014			
目的	「声の表現者」として必要不可欠な発声・発音法や表現力・コミュニケーション力を磨き、様々な場面において活躍する声優・タレントを育成する。								
分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程		声優タレント学科		平成23年文部科学省 告示第166号		—	
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年		昼間	1768	306	1156	306	0	0	
		単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60人		61人		1人		9人		10人	
学期制度	■前期：4月1日～10月14日 ■後期：10月15日～3月31日			成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各期末の成績評価において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。 成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。			
長期休み	■夏季：7月20日～8月31日 ■冬季：12月20日～1月7日 ■春季：3月20日～4月10日			卒業・進級条件		進級条件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ年間の出席率80%以上の者。 卒業条件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ各年次の出席率80%以上の者。			
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 補講実施、留年、休学			課外活動		■課外活動の種類			
						■サークル活動：有			

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 声優タレント学科における就職は進路決定を意味し、多くの学生は声優・タレント養成所もしくは声優・芸能プロダクションへの入所並びに所属を主な目的とする。	特別な資格はなし 語彙・読解力検定
	■就職率 ^{※1} : 25 %	
	■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 5.41 %	
	■その他 (平成 27 年度卒業者に関する平成28年5月1日 時点の情報)	
中途退学 の現状	■中途退学者 4 名	■中退率 5.2 %
	平成27年4月1日 在学者 77 名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 73 名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)	
	■中途退学の主な理由 家庭の経済事情、進路変更(地元での一般就)等	
	■中退防止のための取組 学生、保護者との面談、スクールカウンセラーの活用等	
ホームページ	URL: http://www.kobedenshi.ac.jp	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本学科における実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程（カリキュラム）の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善等を含む）に活かすことを目的に、教育課程編成委員会（以下委員会という）を設置する。

委員会は、業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能、その他教育課程の編成に関する事項を審議する。

委員会の委員は校長及び校長が指名する教職員の他、専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、少なくとも以下の①または②から1名、③から1名を委員に加えることとする。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員。

②専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者。

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員。

委員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。

委員会の委員長は校長または校長が指名する教職員とし、委員会の会務を総理する。

委員会の実施結果については学校側委員および関連教職員により検討を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために必要な教育課程の編成に活用する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
森 もりこ	兵庫県劇団協議会
サエキトモ	有限会社ケッケコーポレーション
大橋 正幸	神戸電子専門学校

(開催日時)

平成27年度第1回 平成27年 9月 7日 15:00～16:30

平成27年度第2回 平成28年 3月 9日 15:00～16:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等の要請等を十分に生かしつつ、本学科の専攻分野に関する職業に必要となる実践的かつ専門的な能力を育成することを目的に、企業等と連携して実習・演習の授業を行う。

実施に当たっては連携する企業との間に、実習・演習の実施、実習・演習用教材の作成、実務的能力評価に関する補助等について協定書（業務委託契約）を締結する。

実習・演習は教育課程編成委員会の結果を活用して編成された教育課程に対して、職業実践的能力を修得するための実習・演習の内容や方法検討、実施、修得した実践的能力の評価等について企業等と連携して行う。

実習・演習の実施は連携する劇団赤鬼の演出家や俳優の徹底した演劇指導を仰ぎ、実践的な舞台の演技を学ぶ。また、劇団自由人会との提携では実際の公演への出演する為のオーディションを行い、その適正に応じ舞台を踏ませるなど、学生に対しての職業意識を強く持たせる仕組みを構築していく。また、声優プロダクションとの提携によりプロ声優の指導を仰ぎ、現場での仕事の実際をイメージさせ具体的な興味を喚起させていく。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
演劇実習Ⅱ	舞台での演技を実践的な視点で指導願う、また実際の舞台に上がる機会を設定して頂く	劇団赤鬼

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

神戸電子専門学校教職員は業務上の能力開発、資質の向上等に関し組織的に研修に取り組む。

教員は職業専門教育を実践するFD（ファカルティデベロップメント）を主題とし、専門的技術力（専攻分野における実務に関する知識、技術、技能）の向上、および教育力（授業および学生に対する指導力）向上等を目的として実施する。

- ・学校全体研修は全教職員を対象とし、年間1～2回の研修を実施する。
- ・部署別研修は部署教職員を対象とし、任意の研修を実施する。
- ・個人研修は所属部門長の指示により、任意の研修を実施する。

教職員の資質向上および教育の質保証のために、積極的に外部の研修へ参加を奨励する。

一部の者が参加する外部研修の結果等については、必要に応じ関連学科・部署または教員全体への報告会等を開催し共有を図る。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
永吉 一郎	地域ICT推進協議会
網本 雅生	NPO法人神戸デザイン協会
横山 剛	株式会社SRC

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて公表)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて情報提供)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 声優タレント学科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アフレコ I	アニメーションや洋画の吹替えをキャラクターや映像に合わせた声の当て方を身に付ける事は勿論一年次は主に声の演技を通じて、その楽しさを理解し、慎重を促す。	1通	102		○		○		○		
○			表現探求	過去の映画や楽曲その他芸術作品について探求し、声優、タレントとしての様々な感性を養っていく。	1通	68		○			○			○
○			業界講座	専門分野の基礎知識や慣習について、幅広く学び技術習得に対する憧憬を促す。	1前	34		○			○			
○			基礎演技	演技をするということの意味から徹底して理解させ、人の喜怒哀楽の表現を学んで行く。声の演技に必要な、演じるという事の基礎を身体と心で習得する	1通	102		○			○			○
○			ヴォーカル I	「歌う」ことを通して腹式呼吸法・発声法を習得し、音感・リズム感などを身につける。	1通	102		○			○			○
○			ヴォイストレーニング	声を職業とするための鍛錬として正しい発声・発音から滑舌、アクセントや鼻濁音、無声化など一語一語の重要性をしっかりと学習する。	1通	102		○			○			○
○			オーディション対策	タレントとは才能のある人という意味。自らの才能を人にアピールすることは声優タレントにとっての生命線。どうすれば他人の心を掴むPRができるかが課題。セルフプロデュースのセンスを研究する。	1後	34		○			○			
○			オーディオドラマ	脚本（ストーリー）を声だけで表現する中で自由な発想やイメージ力を育成する事を旨とする。個々の成果をWEB上に公開するなどして、都度モチベーションを促す。	1前	51		○			○			
○			キャリアデザイン	就職活動に備える為、身につけなければならない「社会性」「意志力」を醸成する。	1通	34		○			○			
○			進級制作	自分自身の演技だけでなく共演者との関係性を考えて演じることを学ぶ。演出家の意図を汲み舞台での動きなどを客観的に覚知する事が大切である。進級公演の完成に向け全員参加の授業になる。	1後	51				○	○			○
○			演劇実習 I	演劇を通じて、演技表現を幅広く追求する。進級公演に向けての実際的な演技を学び、台本テキストを通して一つの作品を作り上げていく。	1通	102				○	○			○
○			HR	学科内の連絡事項を伝える時間として、また、日頃の授業等への取り組みを見つめ合う時間として活用する。	1通	34		○			○			○

○		ダンスⅠ	踊りを通して、心の底からの感動を感じながらリズム感・表現力を身につける。振り付けを考えることで創造力を、また、群舞を踊ることによりチームワークを高める。学内・外での発表を通して、観客の前で表現することの楽しさを学習する。	1 通	68				○	○			○
○		分野コラボレーション	分野内他学科との連携により、「映像」「ライブ演奏」「演劇」等、多角的で広範囲な創作活動を具現化する。実際の現場を趣味レーションし、専門職業人としての認識や協調性等、メンタル面の向上も目指す。	2 後	51				○	○			○
○		演劇実習Ⅱ	演技の集大成として大きな位置づけにある卒業公演。2年間で培ったそれぞれの演技を昇華させていく。	2 通	102				○	○			○
○		ラジオ番組製作	関連科目「ラジオDJ」で学んだ技術と理論を基に実際の現場をシュミレーションし、自らの発想で番組を製作する。学内イベント等を主な発表の場としてカリキュラムを推進し、語彙力と企画力を養う。	2 前	51				○	○			○
○		アフレコⅡ	アニメや洋画の吹き替えなどの実習を通して、キャラクターや映像に合わせた声の当て方を身につける事は勿論声の演技の楽しさ難しさを徹底して追求する。	2 通	102				○	○			○
○		MC/ナレーション	様々な表現を求められるナレーションの奥深さを追求し読み表現の力を身に付けると同時に、あらゆる場面でのMCを想定し、実際のレッスンを通じて司会技術を身に付ける。両者を適宜並行して進める。	2 通	102				○	○			○
○		ヴォーカルⅡ	歌の世界を表現するためのより高度な歌唱技術を習得する。	2 通	102				○	○			○
○		デビュー対策	オーディション本番への備えは勿論、企画・構成段階からの作品へのアプローチを通じて、より高い自己表現力を養う	2 前	34				○	○			○
○		ダンスⅡ	ダンスⅠで身につけた表現力・リズム感を生かし、観客を魅了するエネルギッシュな身体の見せ方等を学習し、ダンスフルな動きをさらに追及する。個々のパフォーマンススキルを向上させる。	2 通	68				○	○			○
○		日本舞踊	舞台での身のこなしやリズム感・表現法・間の取り方等を身につけるとともに伝統芸の心を知る。	2 通	102				○	○			○
○		ラジオDJ	ディスクジョッキーに代表される言葉表現の多様さ、アドリブ話法や時宜を得た話題の織り交ぜ方などおしゃべりのテクニックを学ぶ。	2 通	102				○	○			○
○		ソーシャルゼミ	専門家である以前に、常識を備えた社会人としての資質を磨く必要がある。当校の掲げる「人間力と品位を備えた専門職業人の育成」にも通ずる教養科目。	2 後	34				○	○			○
○		HRⅡ	学科内の連絡事項を伝える時間として、また、日頃の授業等への取り組みを見つめ合う時間として活用する。	2 通	34				○	○			○
合計					25 科目	1768 単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>卒業要件 各年次の進級要件を満たした者で、学科の教育課程に定められた必修科目（選択必修科目を含む）のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得（成績評価3以上）し、かつ各年次の出席率80%以上の者。</p> <p>進級要件 学科の教育課程に定められた必修科目（選択必修科目を含む）のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得（成績評価3以上）し、かつ年間の出席率80%以上の者。</p> <p>成績評価について 各期末の成績評価（100点満点）において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う</p>	1学年の学期区分	2期
<p>履修方法および総授業時間数の計算方法 1年次、全科目必修（884時間） 2年次、全科目必修（884時間）</p> <p>学科の修了に必要な総授業時間は1年次884時間＋2年次884時間＝合計1768時間</p>	1学期の授業期間	17週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。